

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、「文武両道」の理念のもと、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「自ら学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- ①確かな学力の育成と第一志望の進路実現
- ②豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成
- ③生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現

- (1) 「わかる授業」「力をつける授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。
 - ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに組織的に授業力の向上に取り組む。
 - イ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容並びに指導法の改善に努める。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。
 - ウ 「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養う授業を行うとともに「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」(アクティブ・ラーニング 能動的学習)を取り入れ、生徒の主体的な授業参加と活動量を増やし、学びを深める。
 - エ パソコン、プロジェクター、書画カメラ等のICTを活用した授業づくりなど、様々な授業の工夫を行い、よりよく「わかる授業」「力をつける授業」を実践する。
 - ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成28年度81.9%)を上昇させ、平成31年度には85%以上にする。
 - ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成28年度74%)を、平成31年度には80%以上にする。
 - ※ 「学力生活実態調査」における1,2年生のGTSのBへの確実な定着をめざすとともに、将来的にはAに引き上げる。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
 - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
 - イ 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。
 - ※ 学校教育自己診断 「学習支援の充実」 平成31年度90%以上をめざす。(平成28年度84%)
- (3) アクティブ専門コース(アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコース)の充実。
 - ア 生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。
 - イ 何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ力、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。
- (4) 3年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。
 - ア 学年・教科・分掌が連携し、希望する進路に応じた支援の充実を図ることを通して、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養い、第一志望の進路実現に向けて最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。
 - イ 進路指導部、学年が協力して、総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、キャリア教育を推進することを通して、将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。
 - ウ 学力の客観的評価、学力生活実態調査等を継続的に使用し、その結果を分析し、進路指導等に生かす。
 - エ 進路の情報提供の充実を図る。(進路コーナーの充実。HPへのアップ、提供機会の増加。)
 - オ 漢検・英検等資格試験の受験者を増加させ、より難度の高い資格に挑戦させる。
 - ※ 第一志望の進路実現率を平成31年度85%以上にする。
 - ※ 大学入試センター試験 受験率を平成29年度から3年間で60%以上にする。(平成28年度37.7%)
 - ※ 学校教育自己診断 「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」 平成31年度50%以上をめざす。(平成28年度32%)
- (5) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。
 - ア 授業外校内学習指導の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。
 - イ 生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。
 - ウ 学習と学校行事や部活動との両立を図る。
 - エ 自習室や図書室の利用を促進する。
 - ※ 学校教育自己診断 「家庭学習を十分行っている」 平成31年度70%以上をめざす。(平成28年度59%)
 - ※ 部活動の加入率を平成31年度に90%とし、それを維持する。(平成28年度85%)
 - ※ 図書室の貸出冊数を平成31年度に1500冊以上にする。(平成28年度953冊)
 - ※ 高い目標として関関同立の合格者数を3年後に100名以上に伸ばす。(平成28年度31名)

2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

- (1) HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶとともに集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ア 体育祭、文化祭、修学旅行、芸術鑑賞等の学校行事の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」 平成31年度90%以上(平成28年度89%)
- (2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、保健委員会、図書委員会等の活動を充実させ、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践し、生徒の自己有用感を醸成する。
 - ア 生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動、あいさつ運動等の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「生徒会活動が活発」 平成31年度90%以上(H28年度80%)
- (3) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに、挨拶や通学等のマナーを向上させる。
 - ア 基本的な生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
 - イ 生徒の安全確保と地域に信頼される学校づくりの一環として、自転車通学を中心に通学マナーの向上に取り組む。
 - ※ 学校教育自己診断 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」 平成31年度95%以上(平成28年度91%)
- (4) 人権教育、国際理解教育をすすめる、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。
- (5) 海外からの生徒の受入れ等、グローバル人材の育成に向けた取り組みを実施する。
- (6) 保護者との連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進する。特に生徒理解、教育相談の取り組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。
 - ア 家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健部会、教育相談委員会、就学支援委員会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。
 - イ 長期欠席者等への相談体制の充実を図る。
 - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断 「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」 平成31年度90%以上(平成28年度79.5%)
- (7) 開かれた学校づくりにより保護者や地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。
 - ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。
 - イ 地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- (1) ICTの活用等、仕事の効率化、危機管理対応等の充実をめざし、校内組織の見直しと体制づくりを行う。スクラップ・アンド・ビルド方式を基本に、必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。また、本校のめざす学校像の実現に向けて一丸となって課題に取り組む教職員集団づくりをさらに推進する。
- (2) オン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行うとともに、香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験の少ない教員等の育成を図る。
- (3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。
- (4) 教育環境等の整備、予算の効果的執行を行う。
- (5) 広報活動の充実を図り、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
 - ア 「香里PR隊」を結成し、文化広報部とともに中学校や地域住民に対する広報活動を充実させる。
 - イ ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導、進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導では、昨年度に引き続き第一志望の進路実現のため生徒の学力向上・教員の授業力向上を重点目標に掲げた。 授業に関する生徒の肯定回答は昨年に比べ低下傾向にあり、特に「授業の内容や進度は、適切でわかりやすいものが多い」が74%→69%、「生徒が意欲的に取り組むよう、授業の工夫をしている先生が多い」が72%→67%、「授業や学習指導は、本校生の進路希望に対応したレベルになっている」が81%→76%となっている。難易度レベルを平易にすると「わかりやすい」と感じる生徒が多くなるが、それでは入試に対応できるだけの実力がつかないというジレンマが生じる。教員アンケートでも「学習到達度の低い生徒に対する指導や取り組みが、全校的に行われている」の肯定回答が昨年70%から58%にダウンしていることと併せ、これまで以上に生徒個々に応じた細かい対応が求められている。 教員の「授業力や教科指導力の向上について、教職員の間で日常的に話し合いがもたれている」「教職員の間で、授業方法等について研究する機会を設けている」の肯定回答はいずれも昨年より5ポイント以上向上している。大学入試制度改革の校内研修や学力向上のための全体検討会などを通して教員間での意見交換が活発になっていることがうかがえる。 進路指導に関する保護者の肯定回答は、「生徒の進路実現に向けた適切な指導を行っている」が79%、「家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」が75%で、昨年より微増している。同様の項目における生徒の肯定回答は、「授業の他にも進路実現のための学習支援が充実している」が84%→80%、「生徒の興味・関心・適性等に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」が75%→73%と低下傾向であった。進路に関するさまざまな情報へのニーズは生徒・保護者とも高いと思われるので、ホームページや学年メール等を活用してより一層の情報発信に努める必要がある。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「本校は、基本的生活習慣の確立に力を入れている」、「学校生活においてルールやマナーを守っている」の肯定回答は昨年同様90%近くあり概ね良好だが、「学校の生徒指導の方針は納得できる」が昨年の75%から63%に低下している。現在、制服の適切な着用を生徒に求めているところであり、これまで比較的自由度の高い服装指導をやや強化しようとしていることへの反応ではないかと思われる。一方保護者の「学校の生徒指導の方針は納得できる」は88%と高値を維持している。これは「保護者への連絡や意思疎通を適切に行っている」の82%、「保護者の相談に適切に応じてくれる」の83%とも関連しており、保護者連絡をこまめに行っている成果と考える。 生徒アンケートの生徒会活動、ホームルーム活動、文化祭や体育祭などの行事、部活動に関する肯定回答はいずれも90%前後を保っており、その活発さを実感している。また保護者の「学習・部活動・行事などのバランスがとれた教育活動を行っている」「学校行事に生徒が積極的に参加できるよう工夫されている」「勉強と部活動の両立を大切にす雰囲気がある」「子どもは、部活動や行事から多くのことを学んでいる」の肯定回答も90%前後であり、部活動や行事に対して概ね理解を得ている。 教育相談体制については、生徒の「悩みを相談できる先生がいる」の肯定回答は依然56%（昨年55%）にとどまっている。引き続き生徒相談体制の充実に向けて努力する必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「香里丘高校のホームページはわかりやすく充実している」の肯定回答は78%（昨年76%）であった。現在HPの改訂を進めているところであり、よりわかりやすく充実した内容になるように努める。 教職員アンケート「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」（昨年59%→今年66%）、「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」（66%→83%）、「学校運営 	<p>【第1回：6月29日開催】</p> <p>○平成29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に数値化を導入することが求められているが、数値に目を向けるあまり中身の伴っていない計画になることには注意を要する。表に出しやすい進学率・進学実績には目が行きやすいが、目に見えない部分での変化をしっかりと捉えることが肝要。 今年の中学3年生から大学入試制度が改革される。学校がどのように指導していくか。第一志望合格に向けて学力向上に取り組む必要がある。 アクティブ音楽コースは開設2年目。近隣中学や地域との連携も積極的に行われ好評を得ている。スポーツコースは本年度開設。生徒の挨拶がしっかりしており、(委員が勤務する) 中学でもそれにならって挨拶が定着してきている。 <p>【第2回：11月21日開催】</p> <p>○学校経営計画進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業（教員による相互授業見学）を推進しているのは素晴らしいこと。感想シートの提出状況が芳しくないのは残念。 わかりやすい授業のためにパソコンやプロジェクターといったICTを活用する先生が多くなり、現在フル稼働状態という報告があった。経費のかかることではあるが、さらに増設することを検討されたい。 新入生学習オリエンテーションは、勉強と部活動の両立に不安を感じている生徒のニーズに的確に応えている。 生徒の地域コミュニティへの参加はとてもありがたい。生徒が負担に感じていないか心配する。 <p>○学力向上への取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームを組織して検討されている。真の学力をつけるのは確かに難しいが、生徒のやる気を後押しする環境づくりが重要である。 <p>【第3回：2月1日開催】</p> <p>○平成29年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が少しでも興味・関心をもてるような内容を階段踊り場ホワイトボードに掲示する「学びワンポイントコーナー」は生徒の知識欲を刺激しようとする試み。継続・充実させてほしい。 毎日教員での登校指導・下校指導を行っていることは良いことである。続けてほしい。 アンケート項目「教職員が学校運営に積極的に意見を述べる」肯定率は上昇傾向にはあるが、50%に達していないというのは些か不安である。教職員の意見がもっと反映されることを期待する。 <p>○平成30年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の充実は是非必要。ただ機器を増加するだけではなくICT機器をどのように活用するかが大事であると思う。 <p>○学校教育自己診断アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問項目が多すぎるように感じる。回答する側の負担も考え、もう少し精選してもよいのではないか。 <p>○校則等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導に関しては、画一的な指導でなく事情をきちんと聞いたうえで適切な指導をお願いしたい。

に、教職員は様々な場で自らの意見を積極的に述べている」(38%→46%)、「分掌・学年・委員会等、各組織間の連携が円滑であり、有機的に機能している」(62%→64%)など、向上している項目が多く、校長の経営方針が教職員に伝えられ校内組織が活性化の傾向にある。しかしながら「学校運営に教職員の意見が反映されている」(46%→42%)、「教職員が課題を共有し、迅速かつ円滑な解決に向けて協力する体制が整っている」(60%→56%)など、教職員の協力体制の確立面ではまだ課題がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-----------	----------	-------------	------	------

府立香里丘高等学校

<p>1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現</p>	<p>(1)「わかる授業」「力をつける授業」をめざした授業改善と第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。 ア、公開授業、授業アンケート、教員研修等を活用した授業改善の推進と授業力の向上</p> <p>イ、基礎学力の定着</p> <p>ウ、ICTを活用した授業づくりの推進</p> <p>(2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する ア、個に応じた学習指導の実践</p> <p>(3)アクティブ専門コースの充実。 ア、専門コースの授業内容のさらなる充実</p> <p>(4)生徒のキャリア意識の向上を図る。 ア、系統的なキャリア教育の推進 イ、適切な進路情報の提供</p> <p>(5)自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。 ア、自学自習の習慣の確立</p> <p>イ、学習と学校行事や部活動の両立</p>	<p>(1) ア・各授業の初めにその授業の目標(「何を学ぶか」「何ができるようになればよいか)を提示するとともに、授業の終わりに振り返り(「何を学んだか」「何が身に付いたか)を行う。 ・各教科で研究授業、研究協議、互見授業等をさらに活発に実施する。公開授業週間を6月と11月に実施し、その時期を中心に、年間2回互見授業を行い、感想シートを授業担当者及び首席に提出し、授業の質の向上につなげる。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。 ・ベル始業、机上整理を徹底させ、生徒の授業への集中度を高める。 ・観点別評価を推進し、対話型、発表型の授業を行うなど、アクティブラーニングの視点からの授業改善に向けて実践研究を行う。また、大学入試制度改革や学習指導要領の改訂に対応するため、教員研修を充実し、授業改善、授業力向上の取組みの活性化を図る。 イ・全教科において基礎的事項の確実な定着を図るために、生徒の基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容や指導方法の改善、検討を行う。また、基礎学力の定着度のよりよい測定方法についても検討する。また、「学力生活実態調査」のリトライ(やり直し)を徹底し、国・数・英の基礎学力の定着を図る。 ウ・ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、生徒の授業への集中度を高め、より効果的な授業を行う。またそのための設備等の充実を図る。</p> <p>(2) ア・進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施し、学力の高い生徒から学習到達度の低い生徒に対し、学び続ける生徒の育成を図りながら、学力の定着をめざす。模擬試験や各種検定試験に向けた指導を充実し、受験を促進する。</p> <p>(3) ア・アクティブ専門コースがより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。高大連携等を推進し、教育活動の充実、深化を図る。また、そのための施設、設備の充実を図る。</p> <p>(4) ア・「学力生活実態調査」の活用、大学見学会の実施等三年間のキャリア教育計画と進路指導体制をさらに充実させ、キャリア意識の向上を図る。 イ・進学コーナーの充実、HPへ進路情報のアップ、情報提供機会の増加など進路の情報提供の充実を図る。</p> <p>(5) ア・昨年度より新たに導入したWeb予備校の活用をさらに推進し、自学自習の取組みの充実を図る。また、授業外校内学習指導をさらに活発に行い、自立学習の充実を図る。 ・入学当初に学習オリエンテーションをさらに充実させて実施する。また、自学自習の習慣化に向けた新たな取組みについて検討する。 ・学校図書室のさらなる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 ・昨年度新たに設置した「まなびワンポイントコーナー」をさらに充実させる。授業以外の場面における生徒の学習意欲を喚起するような取組みや環境づくりについてさらに検討し、実行できるものは実施する。 イ・アクティブ専門コースを中心とする部活動内での学習支援の充実。行事や部活動の終了時刻の徹底により、学習との切り替えを図る。</p>	<p>(1) ア・授業観察時の授業目標提示と振り返りの実施率 60%以上(新規) ・各教科で研究授業・研究協議を年間3回以上実施できたか。学校教育自己診断における「互見授業」の授業改善への活用率 78%以上(平成 28 年度 75%) ・学校教育自己診断における「授業へ集中して取り組む」率 85%以上(平成 28 年度 83%) ・アクティブラーニングを取り入れた研究授業を各教科 1 回以上実施できたか。 ・アクティブラーニングや大学入試制度改革、学習指導要領の改訂等に関する研修が実施できたか。 イ・1年、2年の第2回「学力生活実態調査」のGTZ「B」(新規) ウ・授業でICTを活用した教員 50%以上(新規) ・学校教育自己診断における「授業の工夫」75%(平成 28 年度 72%) アウ・「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度 83%以上(平成 28 年度:81.3%) ・学校教育自己診断 授業力向上関連項目平均 78%以上(平成 28 年度 75.7%) アウ・関関同立の合格者数を 40 名以上。(平成 28 年度 31 名)本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率 85%以上。(平成 28 年度 83%) (2) ア・学校教育自己診断 講習 65%以上(平成 28 年度 62%) 補習 73%以上(平成 28 年度 70%) ・模擬試験、漢字検定、英語検定受験者、昨年比 5%増。 (3) ア・アクティブ専門コースの次年度選択人数を 40 名以上。アクティブ専門コースの授業内容充実の取り組み状況。 (4) ア・特に進路指導部と第3学年の連携強化。進路指導室の充実状況(常駐体制の確立、連携状況等) ・学校教育自己診断で進路に関わる項目の肯定率の平均が前年度を上回ったか。(平成 28 年度 80%)。進路希望未定者、0%の維持。 イ・学校教育自己診断で進路情報提供項目肯定 78%以上。(平成 28 年度 75%)「進路についての家庭への連絡や適切な情報提供」の肯定回答を 75%以上。(平成 28 年度 72%) アイ・生徒アンケートにより第一志望の進路実現 75%以上。 ・学校教育自己診断「1,2 年時からの進路を意識した学習のスタート」35%以上(平成 28 年度 32%) (5) ア・参加者 50 名以上。(平成 28 年度 39 名) ・アンケートで肯定平均 95%以上。(平成 28 年度 99%) ・家庭学習の充実。学校教育自己診断 63%以上。(平成 28 年度 59%) ・図書室の貸出冊数 10%増(平成 28 年度 953 冊) ・学習意欲を高める取組みに広がりや深まりがあったか。 イ・学習支援の取組み状況と終了時刻の厳守。</p>	<p>(1) ア・授業目標提示と振り返りを意識して授業を行っている教員は 79%(49 名/62 名)で目標の 60%を大きく上回った。授業目標提示と振り返りを「わかる授業」の一つの標準型として次年度はさらに実施率を高めたい。(◎) ・教科毎に各教科年間 3 回の研究授業・研究協議を目標通りに実施した。また、今年度も互見授業を活用して授業力向上に取り組んだが、「互見授業」の授業改善への活用率は、昨年度と同じ 75%に留まった。次年度は研究授業・互見授業がより有効なものとなるように実施方法等のさらなる改善を図りたい。(△) ・第1回の授業アンケートの結果をもとに全教員、全教科が課題の洗い出しや解決に向けて取り組むなど全校的に授業の自己点検及び改善に取り組んだ。(○) ・ベル始業はほぼできているが、机上整理が徹底できていない授業がみられたため、授業において生徒に守らせるべきことを改めて全教員に周知徹底し、授業規律の確保に努めた。生徒の「授業へ集中して取り組む」率は、目標の 85%には少し届かなかったものの、82%と昨年度と同じ水準を維持することができた。(△) ・観点別評価を推進し、対話型、発表型の授業を行うなど、アクティブラーニングの視点からの授業改善に向けて実践研究を各教科で行い、アクティブラーニングを取り入れた研究授業も実施した。アクティブラーニングを教員各自も意識的に授業に取り入れるなど実践研究を進めた。次年度もさらにアクティブラーニングの視点からの授業改善に向けて実践研究を進めたい。(○) ・大学入試制度改革、学習指導要領の改訂等についての情報を職員会議で共有するとともに、7月に「大学入試制度改革、学習指導要領の改訂」に関する教員研修を実施した。これらの取組みをとおして、授業改善に向けての教員の意識が高まりが見られた。次年度も大学入試制度改革や学習指導要領の改訂に対応するため、授業改善、授業力向上の取組みの活性化をさらに図りたい。(○) イ・「学力生活実態調査」の結果分析会に例年以上に多くの教員が出席し、生徒の学力や生活の実態を把握し、学習指導等に活かした。また、プロジェクト委員会が中心になって全教員で基礎学力の定着度のよりよい測定方法や生徒の学力向上方策等について検討会を実施し、いくつかの改善策を策定することができた。第2回「学力生活実態調査」の結果は、1年は入学時の「B2」を維持し、2年は、3教科の総合では「C1」という結果となったものの、各教科は「B」を維持でき、昨年度との比較では、どちらの学年も結果は大幅によくなった。次年度は、「学力生活実態調査」をさらによりよく活用するとともに、生徒の学力向上に向けたさらなる改善策の検討を続けたい。(◎) ウ・昨年度導入した電子黒板機能付き短焦点プロジェクター 4 台が年度当初より活発に活用され、一時不足状態であったが、PTA の協力を得て今年度新たに 2 台追加した。それもほぼフル活用の状態であった。授業で ICT を活用した教員は 58%(36 名/62 名)と目標を大きく上回った。次年度は、台数の関係で授業で使用したくてもできない教員がいる現状の改善に向けて ICT 機器のさらなる充実にも努めるとともに、授業でのより効果的な活用方法について実践研究を深めたい。(◎) ・「授業の工夫」への肯定率は 67%と昨年度を下回り、目標を達成できなかった。次年度はさらにより良い授業が提供できるように、学校全体で授業の工夫・改善に取り組むたい。(△) アウ・「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度は昨年度を上回り 82.6%で概ね目標を達成できたが、学校教育自己診断 授業力向上関連項目の平均は 70.7%と昨年度(H28:75.7%)を下回り、一昨年度(H27:70.3%)と同程度に留まった。(△) アウ・関関同立の合格者数は 51 名(昨年度 31 名)で、目標を大幅に上回った。(◎) ・本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率は、目標には少し届かなかったものの、80%と高い数値を維持することができた。(△) (2) ア・進学講習、授業の補習等を進路指導部、学年等が中心となって組織的、計画的に実施した。学校教育自己診断における教員の評価では、講習、補習ともに昨年度よりも低下(講習 62%→58%, 補習 70%→58%)し、目標は達成できなかった。「進路実現のための学習支援の充実」についての生徒の評価も低下した(H28:84%→H29:80%)。次年度はさらにきめ細やかな指導に努めたい。(△) ・模擬試験:1年 311 名、2年 359 名、3年 510 名が受験。1,2 年は昨年度並みだが 3 年は大幅に増加した(H28:462 名→H29:510 名 10%増)(◎) 漢字検定:78 名受験 昨年度より 16%減(△) 英語検定:99 名受験 昨年度より 10%増(◎) 次年度は、生徒の学びをさらに支援し、生徒が 3 年間を見通して、計画的な受験ができるように実施する検定試験の種類や実施方法等の改善に努めたい。</p>
---------------------------------	--	--	---	--

府立香里丘高等学校

<p>1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現</p>			<p>(3) ア・アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコースともに大学教授等の外部講師の支援も受け、より高度で深化した内容を授業に取り入れることができた。次年度のコース選択者は60名（音楽：16名、スポーツ：44名）と今年度の45名（音楽：14名、スポーツ：31名）から着実に増加した。次年度は、選択した生徒の満足度がいっそう高まるように、さらに内容の充実に努めたい。</p> <p>(○)</p> <p>(4) ア・「学力生活実態調査」の結果分析会に例年以上に多くの教員が出席し、生徒の学力や生活の実態を把握し、学習指導等に活かした。また、7月に例年の大学見学会に加えて、1年生全員参加の大学見学会も新たに実施した。各学年の進路講演会の実施時期を見直すなどより効果的なキャリア教育となるように努めた。5月に担任交流会、8月に進路研修会を実施するとともに、進路指導室への3年担任2名の常駐、就職主担、面接担当者の常駐と合わせて進路指導部と第3学年との連携の強化を図った。次年度は、1年時より生徒の進路意識を高める取組みの一層の充実に図りたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導にかかわる項目の肯定率の平均は78%でわずかに目標には届かなかったものの、進路希望未定者は0%で目標を達成することができた。(○) イ・進路コーナーの充実、「進路だより」、進路説明会、講演会の実施など情報提供機会の充実に努めた。学校教育自己診断で進路情報提供項目の肯定率は73%と目標の78%に届かなかったが、「進路についての家庭への連絡や適切な情報提供」への肯定率は上昇し、75%の目標を達成することができた。次年度もさらに進路の情報提供の充実に図り、生徒のキャリア意識の向上に努めたい。(○) アイ・「第一志望の進路実現」は72.4%で目標にはわずかに届かなかった。(△) ・学校教育自己診断 「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」は36%と昨年度から4ポイント上昇し、目標を達成することができた。次年度はさらに生徒の進路意識を高める取組みのいっそうの充実に図りたい。(○) <p>(5) ア・今年度は、Web予備校に66名（1年：38名、2年：16名、3年：12名）の参加があり、目標の50名（H28参加者：39名）を大きく上回った。放課後等に校内学習会を実施するとともに、受講進度の遅い生徒には受講促進の指導を行った。今年度は生徒ごとの活用状況に少し差が見られたので、次年度は、校内学習会の回数を増やすとともに、生徒が受講計画を立てやすいように情報提供に努め、自学自習の取組みのさらなる充実に図りたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に内容をさらに充実させて実施したところ、生徒にたいへん好評で、アンケートでの肯定的回答率は99%と目標の95%を大きく上回っただけでなく、肯定的回答の中の「大変良かった」とする回答の割合が昨年度よりもさらに増加した。次年度もこの率が維持できるように、さらに内容の充実努めたい。(◎) ・学校教育自己診断において「家庭学習を十分行っている」とした回答は目標の63%には届かず、昨年度と同様の59%に留まった。(△) ・1年生の図書オリエンテーション時の貸出練習、「図書だより」などでの本に関する情報提供、開館日や時間を増やすなど読書や自習習慣のための環境整備に努めた。また、今年度1年生で読書コンクールを新たに行った。年間貸出冊数は1068冊、来館者数は3711名とどちらも昨年度を大きく上回っており、目標を十分達成できた。次年度は生徒の読書習慣の確立に向けて学年、教科、部活動とも連携を取り、さらなる取組みの充実に図りたい。(◎) ・生徒の学習意欲喚起の一環として、各教科の重要事項や興味深い話題を掲示する「学びワンポイントコーナー」を今年度も設けた。実施状況は昨年度と同程度であったが、生徒の反応も良く、比較的好評であった。次年度は、さらに活発に活用し、内容の充実に図っていきたい。(○) イ・部活動内で定期考査前に学習会を行うなど部活動と学習の両立に向けての取組みを行った。また、家庭学習時間の確保のために完全下校時間（19時）を遵守することができた。次年度は、確保されたはずの家庭での学習時間がより有効に活用されるように、部活動と学習との両立に向けて取組みをさらに充実させたい。(○)
-----------------------------	--	--	---

府立香里丘高等学校

<p>2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p>	<p>(1) 生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。 ア、生徒の自主性を育むHRの充実 イ、学校行事の充実 ウ、部活動の奨励</p> <p>(2) 生徒会活動の充実 ア、自主性、主体性を重視した生徒会活動の奨励</p> <p>(3) 規律ある学校生活 ア、通学マナーの向上 イ、遅刻指導の強化と挨拶の奨励 ウ、校内美化の推進</p> <p>(4) 不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力の育成 ア、人権教育・国際理解教育のさらなる充実</p> <p>(5) グローバル人材の育成 ア、海外の生徒との交流</p> <p>(6) 安全で安心な学校づくりの推進 ア、PTA活動の推進と家庭との協力体制の充実 イ、個々の生徒への支援体制の充実 ウ、教育相談の充実</p> <p>(7) 地域連携によりさらなる生徒の育成を図る。 ア、地域コミュニティの中での「育ち」の支援 イ、地域の学校や団体との連携・交流</p>	<p>(1) ア・生徒の自主性を尊重し、「香里を考えるHR」の充実を図り、学校生活改善の提言をさせ、帰属意識を高める。 イ・体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。 ウ・新入生に対し、部活動入部を強く勧める。中学校との合同練習、地域への貢献活動、クラブ員による出身中学校訪問等を引き続き組織的に実施する。</p> <p>(2) ア・生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動を奨励し、中学生対象の授業・部活動体験での発表、新入生歓迎行事の充実、CM会議、クラブ総会の充実、保健委員会、図書委員会の活動の活性化など、生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実を図る。また、昨年度に改修した校門前花壇の管理を1年間通して行う。</p> <p>(3) ア・通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 イ・基本的生活習慣の定着に努め、遅刻者数の減少を図る。日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 ウ・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>(4) ア・LHR、「総合的な学習の時間」を中心として、効果的な人権教育・国際理解教育を展開するとともに、人権教育・国際理解教育のさらなる内容の充実を図る。</p> <p>(5) ア・海外の生徒等との交流を計画的に行う。</p> <p>(6) ア・PTAと共催で、人権研修や登校指導等を実施し、保護者との連携して安全で安心な学校づくりを推進する。 イ・障がい等の事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。 ウ・教育相談体制等をさらに充実し、スクールカウンセラーと学年との連携を深める。生徒への声掛けをより充実させる。</p> <p>(7) ア・地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。 イ・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」の開催数を増やす。 ・地域の学校や団体との連携・交流をさらに充実させる。</p>	<p>(1) ア・生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価する。 イ・満足度90%以上を維持。(平成28年度91%) ウ・部活動加入率1年生87%以上。(平成28年度85%) 出身中学校訪問3部以上。中学校との合同練習10回以上。</p> <p>(2) ア・CM会議年間25回以上。 クラブ総会の年3回の継続と内容の充実。 ・保健委員会による、学校保健委員会での活動報告。 ・図書委員会、年5回以上。活動状況。 ・年間を通じた花壇の管理状況。(新規) ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発」肯定率83%以上。(平成28年度80%)</p> <p>(3) ア・毎日登校時の自転車指導の実施。 イ・遅刻者数前年度比減少(平成28年度738名) ・挨拶運動の実施と日常の教職員からの挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。 ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率80%以上(平成28年度79%)</p> <p>(4) ア・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断80%以上。(平成28年度78%)</p> <p>(5) ア・海外生徒等との交流を1回以上実施。(平成28年度0回)</p> <p>(6) ア・PTAによる登校指導を6回以上実施。 ・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 保護者85%以上。(平成28年度86%) イ・委員会を年6回以上の開催し、全体で情報を共有し生徒の支援をする。 ウ・学校教育自己診断(悩み相談)58%以上。(平成28年度55%)</p> <p>(7) ア・地域イベントへの参加状況。 イ・「香里カップ」「香里フェス」を合わせて5部以上の実施。 ・連携・交流の状況。</p>	<p>(1) ア・11月に「香里を考えるHR」を実施した。学校行事や学校生活等について生徒から積極的に多くの前向きな提言が出され、すぐに実現可能なものは実現に努めた。昨年度の生徒の提言を受けて、今年度パンの自動販売機を設置した。学校教育自己診断で81%の生徒が「HR活動が活発」だと回答した。本校の特色の一つでもあるので、さらに深い議論がなされるように次年度も引き続き充実に努めたい。(○) イ・前年度の総括をもとに、さらに充実したものになるように取り組んだ結果、今年度も生徒の満足度91%で目標を達成することができた。(○) ウ・新入生歓迎会や体験入部をさらに充実して実施した結果、1年生の部活動加入率は88%で目標を十分に達成できた。今年度出身中学校訪問は1部にとどまり目標には少し届かなかったものの、中学校との合同練習は18回実施し、目標を大幅に上回った。次年度は出身中学校訪問や入学時の部活動勧誘の取組みをより充実させ、部活動への参加をさらに奨励したい。(◎)</p> <p>(2) ア・会議の内容の充実に留意しつつ、CM会議を26回、クラブ総会を3回実施し、目標は達成できた。次年度は、CM会議、クラブ総会の内容をさらに充実させ、クラブ間の連絡やクラブが協力し合って行う取組みの一層の充実を図りたい。(○) ・生徒保健委員会で「疲れのとれる睡眠」について研究し、文化祭、学校保健委員会で発表した。また、文化祭前のエコ賞の審査や当日の校内清掃、冬季暖房期の加湿器の日常点検等年間を通して活発に活動した。(○) ・図書委員会を5回実施した。図書委員はカウンター当番など図書関係の役割を分担し、しっかりと役目を果たした。次年度は、図書館の利用がさらに活発になるように、図書委員の活動もさらに活発にしていきたい。(○) ・校門前花壇の管理は、生徒会や各部活動の部員たちが中心となり、年2回の植え替えや日々の水遣りなどの管理を1年間通して行った。また、著名なグリーンコーディネーターの方を講師にお迎えして、日々の花壇の管理についての講習会も行った。次年度は花壇の管理に携わる生徒の数をさらに増やしていきたい。(◎) ・学校教育自己診断で「生徒会活動が活発」との回答が85%と昨年度の80%を大きく上回り、目標は十分に達成できた。(◎)</p> <p>(3) ア・毎日登校時だけでなく下校時も全教員の当番制で校外の通学路にまで出て自転車等の登下校安全指導を行った。苦情は多少あったものの件数は少なくなり、苦情の内容も学校の指導に理解を示していただけのものが増えた。次年度も生徒の安全確保と近隣に迷惑をかけないように全校をあげての登下校指導に取り組むたい。(◎) イ・遅刻者にはその都度注意喚起を行った結果、遅刻数は652名と昨年度(738名)比10%以上減少し、目標を大きく上回った。次年度も指導の徹底と定着を図り、全校を挙げてさらなる遅刻の減少に取り組むたい。(◎) ・毎朝登校時の自転車指導、挨拶運動を実施し、教職員からの声かけや挨拶を積極的に行った結果、積極的に挨拶をする生徒の姿がより一層多くみられるようになった。次年度は、継続して声かけ、挨拶運動を行い、挨拶習慣のさらなる定着を図りたい。(○) ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率は78%(H28:79%)に留まり、目標の80%にはわずかに届かなかったものの、日常の清掃指導にはしっかり取り組んだ。次年度は、全校をあげてさらに日常の清掃指導に取り組み、生徒に清掃習慣の確立に努めたい。(○)</p> <p>(4) ア・「SNSの正しい使い方」「デートDVについて」「障害者・在日外国人差別について」「労働問題」等の内容で計画的に人権HRを実施した。学校教育自己診断の「人権の学ぶ機会」の肯定率は76%と昨年度を下回り、目標には届かなかった。(△)</p> <p>(5) ア・交流相手が見つからず、今年度は実施できなかった。次年度はモンゴルとのテレビ会議を実施する予定。(△)</p> <p>(6) ア・PTAによる登校指導を6回実施した。保護者に生徒の実態を知っていただくことで、家庭と連携した指導がしやすくなっている。(○) ・人権講演会を各学年のテーマにしたがって計画的に実施した。12月には教職員・保護者合同の人権研修「発達障害について」を実施し、保護者の方も参加してくださった。学校教育自己診断の保護者の「人権を学ぶ機会」の肯定的回答は、85%で目標を達成できた。(○) 次年度も引き続き、より効果的な取組みにするべく検討を重ねながら実施していきたい。</p>
-------------------------------	--	--	--	---

府立香里丘高等学校

<p>2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p>			<p>イ・合格者登校時より生徒の個別状況の把握に取り組み、個に合わせた合理的配慮の実施に努めた。また、年度当初に資料を作成し、全教職員で情報共有を図り、状況に変化があるごとに随時更新し、情報共有に努めた。資料配布は5回、就学支援委員会は、6回開催し、目標は達成できた。次年度は、学年と委員会、教育相談係との連携をより密にし、さらにきめ細やかな指導ができるように努めたい。(○)</p> <p>ウ・今年度は保健部、生徒指導部相談係、各学年担任会との連携をさらに密にし、組織的な対応を行った。学校教育自己診断の「悩み相談」の肯定的回答は目標には届かなかったものの昨年度よりはわずかに上昇し、保護者の肯定的回答も昨年度の81%から83%へと上昇した。生徒の状況は、各学年の教育相談担当者からの報告で把握し、状況によって、担任、保護者、SCと連携した丁寧な対応に努めた。保健室への直接の相談にも丁寧に対応した。次年度は、教育相談係会の新設を検討するなど、教育相談により組織的に対応できるように、教育相談体制の見直しも含め、一層の充実に努めたい。(○)</p> <p>(7)</p> <p>ア・部活動が中心となって地域のイベントに参加した。吹奏楽部が「地域高齢者の集い」「グリーンヒル光善寺住宅夏祭り」「老人ホーム」「成人の日の集い」「クリスマスコンサート」等地域イベントで7回(昨年度6回)演奏した。雨天のために中止になったが、枚方市の周年行事での演奏も依頼された。ダンス愛好会が「道頓堀清掃活動」に参加し、演技を披露した。また、野球部、吹奏楽部が、定期的に地域の自主清掃活動を行った。次年度は、活動の内容をより充実させるとともに、さらに活動の場を広げていきたい。(○)</p> <p>イ・「香里カップ」3部(サッカー、ソフトボール、女子バスケットボール部)、「香里フェス」1部(吹奏楽)が実施し、昨年度同様の4部に留まった。次年度は、実施クラブの増加をめざすとともに、内容の充実に努めたい。(△)</p> <p>・部活動を中心に交流を行った。(ソフトボール部：大阪国際大学と部活動交流。)また、近隣の中学校との部活交流を女子バスケットボール、女子バレーボール、ソフトボール、吹奏楽部で実施した。次年度も引き続き交流を深めたい。(○)</p>
-------------------------------	--	--	---

府立香里丘高等学校

<p>3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上</p>	<p>(1) 校内組織の見直しと体制づくり ア、危機管理対応等の充実。 イ、円滑な組織運営(スクラップ・アンド・ビルド方式)と一丸となって課題に取り組む教職員集団づくり</p> <p>(2) 経験の少ない教員等の育成。</p> <p>(3) ICTの有効活用。 ア、ICTを活用した校務の効率化</p> <p>(4) 広報活動の充実。 ア、効果的で適切な情報発信</p>	<p>(1) ア・地震火災対応・AEDの使用について教職員・生徒への周知等を工夫する。 イ・プロジェクト委員会が中心となり、必要に応じてPTや委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識の向上を図る。</p> <p>(2)・新任から2年目までの教員対象の勉強会「香里会」を実施する。自信を持って授業や生徒指導等に当たることができるよう進める。研究授業を実施するとともに、危機管理を含めた保護者対応、授業、部活動指導等について先輩教員の指導に学ぶ。</p> <p>(3) ア・情報処理委員会を中心に校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。ICTを活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。</p> <p>(4) ア・中学生学校見学会、HPの更新、中学校訪問など文化広報部や「香里PR隊」が中心となって中学校や地域住民に対する効果的で適切な広報活動を充実させる。 ・メール配信登録者に年間通じて情報提供に努め、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。</p>	<p>(1) ア・防災訓練2回実施。生徒、教職員対象AED講習会の充実。学校教育自己診断80%以上。(平成28年度78%) イ・PTや委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均60%以上。(平成28年度55.1%)学校運営への参画意識50%以上(平成28年度42.0%)。 (2)・香里会を年間5回以上実施。研究授業の実施状況(初任者:年2回以上、2年目:年1回以上)。アンケート肯定平均75%以上。(平成28年度70%) (3) ア・全教科でICTを活用した教材共有システムを開発し、その活用状況。成績処理のICT化等、業務軽減の状況。</p> <p>(4) ア・学校見学会年間4回実施、参加者5%増(平成28年度4回1404人)、HPを月3回以上更新する、中学校訪問年2回実施 ・メール配信登録者、70%以上。年間配信数90件以上。(平成28年度:登録者66.4%、年間配信数89件)</p>	<p>(1) ア・5月には火災を、10月には地震を想定して防災訓練をで実施した。AED講習会を7月に生徒1回、教職員1回実施した。学校教育自己診断の「地震、火災等が起こった場合の行動」の肯定的回答は75%と昨年度を3ポイント下回り、目標には届かなかった。次年度は、実施方法をさらに工夫し、充実を図りたい。(△) イ・プロジェクト委員会を毎週1回開催し、学校の課題解決に向けての具体的な方策を検討した。また、今年度は三つのPT(学力向上学習支援・校内体制・施設活用)を組織し、各課題について検討を行った。「学力向上学習支援」については、教員アンケートで課題を洗い出し、解決策を教員全員参加の全体会で検討し、次年度から改善することと中期的に検討を続けていくものに分けて、具体的な改善策を策定した。「学力生活実態調査」のさらなる有効活用、「模擬試験」の有効活用、「教科ごとの学力到達目標と目標達成度合いの検証」等については、次年度から実施する。「施設活用」においては、食堂の整備、旧給品部の改装を完了させることができた。また、授業でのプロジェクターの活用がたいへん活発になってきたことをうけて、次年度の「学校経営推進費」の獲得を視野にICTを活用した学力向上方策について現在計画を作成中である。学校教育自己診断(学校運営)平均は59.5%とほぼ目標を達成し、昨年度の55.1%から4.4ポイント向上した。(H27:46.8%)。また、教職員の学校運営への参画意識は目標には届かなかったものの44%と昨年度よりも少し上昇し、一昨年度(H27)の21.5%からは大幅に向上した。「校長のリーダーシップ」(H27:47%→H28:59%→H29:66%)、「校長の学校運営への考え方の明示」(H27:69%→H28:66%→H29:83%)、「教職員が学校運営に積極的に意見を述べる」(H27:26%→H28:38%→H29:46%)といずれ項目も肯定率が上昇してきており、「チーム香里丘」として教職員が力を合わせて学校運営に取り組む体制は整いつつある。次年度は、教職員の参画意識をさらに高め、「チーム香里丘」として教職員一丸となって学校運営に取り組みたい。(◎)</p> <p>(2) ア・「香里会」を計画的に年6回実施した。今年度は初任者と2年目の教員の研修内容を変えて、より実際の教育活動に役立つものにした。授業や生徒指導、保護者対応、研究授業の実施、部活動指導などについて昨年度よりも内容を充実させて先輩教員から学ぶ機会を設けた。対象教員の出席も良好であった。研究授業も計画的に予定通り実施することができた。学校教育自己診断(経験の少ない教職員の育成)の肯定回答は81%で昨年度の70%から大きく上昇し、目標の75%を大幅に上回った。次年度は、授業力の向上を中心にさらに研修内容の充実を図りたい。(◎)</p> <p>(3) ア・指導要録、成績処理、通知表、調査書はすべて校務処理システムへの移行が完了した。これにより学期末の事務作業量はかなり軽減された。校内LANと統合ICTを併用して活用してきたが、データの共有を円滑に行うために校務業務のほとんどを統合ICTに一本化した。それにより教材や会議資料、分掌関係の文書などの共有がよりスムーズに行えるようになった。現在、出席簿の電子化について検討中である。次年度は、校務処理システムのさらなる活用や校内のICT関係設備の充実を通して、校務の効率化に向けてICTの活用をさらに進めたい。(○)</p> <p>(4) ア・学校見学会・体験入学を6, 11, 12, 1月に実施した。参加者の合計は1412名で目標には届かなかったものの、中学校卒業生が減少する中、昨年度(1404名)を上回ることはできた。HPは、平均月7回以上更新(計90回)ができており、目標を大きく上回った。また、HPそのものをリニューアルし、より見やすく、更新しやすいものに改善した。在校生の出身中学校への訪問を、全教員で分担して、原則2回実施し、学校の説明等を行った。次年度は、より効率的、効果的な広報活動となるように計画の見直しを行うとともにさらなる充実を図りたい。(◎) ・メール配信登録者は、1年83.3%、2年72.7%、3年75.6%、全体77.3%で、目標を大きく上回った。配信数は137件で目標を大きく上回ることはできた。次年度も、登録者数、配信数をさらに増やし、情報提供の一層の充実を図りたい。(◎)</p>
---------------------------------	---	---	--	--